

令和6年度

令和7年3月10日開催

京都府子育て支援団体認証制度

認証団体意見交換会 開催レポート



令和7年3月10日に、令和6年度京都府子育て支援団体認証制度認証団体意見交換会を開催いたしました。まず始めに、子育て支援認証団体13団体様より、今年度力を入れた活動と新規事業についてと、人材育成の状況についてお話いただきました。次に、グループワークで認証制度の今後について話し合い、各グループの意見を共有しました。講評は福知山公立大学 杉岡秀紀准教授よりいただきました。

認証団体の皆様から、子育て支援の現場に根差した貴重なご意見を数多くいただき、大変意義のある意見交換会となりました。ご参加ありがとうございました。

NPO法人 子育ては親育て・みのりのもり劇場

京都市右京区

- 今年度力を入れた活動と新規事業

今年も昨年同様、原点回帰をテーマとし、自然の中での活動に力を入れてこられたそうです。京丹後市にて、里山でのファミリー体験を行い、親も未経験のことを子どもと一緒にチャレンジする、共感して分かち合う体験をして対話が生まれることの素晴らしさを発見したそうです。今後もこのプログラムのブラッシュアップを図っていくとのことでした。

その他にも、地域ぐるみの子育てを進めるため、地域の企業に子育て支援にどう関わっていきたくをリサーチし、忌憚ない意見を行政側に伝える、間を取り持つような活動も行っているとのことでした。

- 人材育成について

最近、多世代交流の場で、小さいお子さんのいるお母さんの雇用を進めておられるそうです。また、以前より発行を継続している地域のフリーペーパーの作成において、発信者の育成を試みており、このことを通して、地域への愛着育成、市民メディアの強化を進めていきたい、とのことでした。

一般社団法人 いんふあんとroomさくらんぼ

向日市

- 今年度力を入れた活動と新規事業

例年通り多胎児支援を継続しており、すべての多胎児を把握し訪問支援を実施中とのことですが、自治体の予算で実施ができていたとのことでした。来年度から力を入れていきたい取組は、実践的な子どもの事故防止とのことでした。Safe kids JapanというNPO法人とコラボレーションして実施しているもので、訪問支援にプラスして家の中の状態をチェックし、転落事故や誤飲、溺水などの事故防止のアドバイスも併せて行うことを検討しています。これは訪問支援をしている他団体とも連携していく予定とのことでした。

また来年度は、性の健康教育の実施を検討中です。定期的に実践をして予算化に繋げるまでを2年で実現するのが目標、とのことでした。

- 人材育成について

常設事業、広場事業いずれにしても世代交代が課題になっており、新しい人材を入れていっている、とのことでした。他の団体を支援するという形で人材を育成し、事業化していくことを試みているそうです。

認定NPO法人 FaSoLabo京都

京都市中京区

- 今年度力を入れた活動と新規事業

食物アレルギーの子どもと保護者の生活の質の向上を理念として活動しておられます。今年度は「どれみ隊」というプロジェクトに力を入れたそうです。「どれみ隊」は、年齢や食物アレルギーの有無に関わらず集まったメンバーが、子どもたちが主体となって、子どもたちの視点や発信から食物アレルギーの社会的理解を進めていくことを目的とした活動です。アレルギーがあるからこそ挑戦したいこと、社会に知ってもらいたいことを子どもたちが主体で準備運営し、大人はサポート役に徹します。年数回イベント開催をしたり、勉強会やワークショップも実施しているとのことでした。

今後の新規事業は特にないそうですが、つどいの広場で食物アレルギーの社会的理解を広めることを目標としており、食物アレルギーの予防についても啓発を行っていききたいとのことでした。

- 人材育成について

人材育成の一環として、定期的な研修を実施されているそうです。また、食物アレルギー関連の学会にも参加していて、患者ブースの出展も行っておられます。他団体の活動を知ったり、医療従事者と直接対話をしたり、貴重な機会を得ることができた、とのことでした。

法人内での活動としては、法人の理念を確認したり、月ごとにテーマを決めて勉強会を開催しておられるそうです。最近では、子ども基本法についての勉強会を実施したとのことでした。

NPO法人 そよかぜ子育てサポート

京田辺市

- 今年度力を入れた活動と新規事業

京田辺市で、ファミサポや子育て広場、小規模保育園、親子教室（就学前）、認知症カフェ等を実施されています。今年度は、発達障がいになる子や障がいを持つ子の保護者や、子育てに困っている保護者が集まる場「でこぼこさんひろば」が2年目に入りました。自由に交流ができ、困っているお母さんに思いを吐露してもらいやすくなり、今後も継続していきたいとのことでした。訪問支援も実施していて、保健師からの紹介や直接電話での依頼で受け付けており、悩みを聞いてほしいという依頼が年間50件ほどあるそうです。

新規事業としては、3世代交流の場である認知症カフェの新たな活用法を模索しておられるそうです。夏休みなどに1人になる人がだれでも利用できる場所になれば検討中とのことでした。

- 人材育成について

支援者の世代交代が必須となってきており、幼稚園の子がいるお母さんたちに声をかけ、利用者から託児スタッフ、広場のスタッフになってもらっているそうです。人材育成のための研修は、外部で開催されているものを受講するのがメインで、必要があれば法人内でも実施されています。数多くの事業を行っているため、スタッフの気持ちを一つにするために、NPO法人の理念を共有するようにしているとのことでした。

NPO法人 京都子育てネットワーク

京都市伏見区

- 今年度力を入れた活動と新規事業

子育てを面白がりながら考える対話型コミュニケーションカードゲーム「コソアル」を作成し、地域の多世代交流に活用できるよう広める活動をされているそうです。子育てに関わってこなかった高齢の方から、高校生や大学生にも、子育ての現実を理解してもらい、背景を聞きながら想像してもらうことができるようになってきています。札にある川柳をネタにして自らのエピソードを語り、自己開示をしつつ、交流、理解を促進していきます。高校の家庭科の先生や、民生委員からもニーズがあるそうです。

- 人材育成について

今年度は、親子の元気を引き出すマイクロレベルの取組から、地域が持つ子育てをケアする力を引き出すメゾレベルの取組、政策提言につながるようなマクロの視点、横断的な子育て支援の体制作りにつながる取り組みをしていきたいとのことでした。認証団体同士の繋がりで得た力を凝縮して、次年度に繋げていきたい、支援者研修にも力を貸してもらいたい、外部の力も、団体が持つ内部の力も共に育ちあっていきたい、とのことでした。

NPO法人 おひさまと風の子サロン

福知山市

- 今年度力を入れた活動と新規事業

毎月定期的に開催しているイベントは毎回充実しており、予約もすぐ埋まる状況が続いているそうです。平成28年から続けている赤ちゃんふれあい学習に関しては、1月に開催された学習実践発表会にて実践発表を行ったとのことでした。毎年実施している専門職による講習会も、離乳食、歯、発達等のテーマで開催されました。

月1回の沐浴体験教室も開催されていますが、妊娠中から参加してもらい、産後2、3か月で再度来てもらうという流れになっているそうです。産後うつの方からLINE相談が入ることが多いため、何か不安があればいつでも話してほしいと妊娠中からフォローをしているとのことでした。

- 人材育成について

人材育成は、研修会、講習会への参加を通して実施しているとのことでした。NPO法人設立20周年まであと3年となり、この3年の間に後継者を育てて引継ぎを実施していく予定、とのことでした。

NPO法人 グローアップ

南丹市

- 今年度力を入れた活動と新規事業

今年度は、子育て世代と学生の交流に力を入れられたそうです。赤ちゃんとその保護者と触れ合うことが、子育てのリアルな側面を知る機会となり、命の大切さや親の苦労を学ぶことができます。世代間の交流を通して相互理解を深めるとともに、参加した学生の心の成長にも繋がる取り組みです。新規事業としては、大学生主体のNPO法人のインターン生を受け入れたとのことでした。広場支援員として活動してもらい、子育て支援の現場を経験して支援側の視点を持ってもらうことで、地域全体で子育てを支えていくにはどうすればよいかという点について支援員側にとっても学びになったとのことでした。

以上のように、交わる場の提供が今年度の大きな成果となりました。今後も、未来の親となる人たちとの関わりを増やしていきたいと考えているそうです。

- 人材育成について

府の研修会への参加、月1回のミーティングを通して人材育成に取り組んでいるとのことでした。グローアップとして、どのように地域に支援の場を提供していけるか、返していけるかを引き続き考えている、とのことでした。

NPO法人 こそだてママnet☆

木津川市

- 今年度力を入れた活動と新規事業

今年度は、不登校の子を対象としたオルタナティブスクールの始動に向けて活動を進められたそうです。木津川市内にある他のフリースクールやオルタナティブスクールと協力し、高めあうために、市内の子育て支援団体のネットワーク作りを進めていて、行政への働きかけや予算の依頼も力を合わせてやっていきたいと考えているとのことでした。

新規事業としては、ネットワークを作って他の支援団体と繋がり、連携のもと、引きこもっている子や自分の意志で登校していない子に居場所を作っていくことを計画中です。チラシ作成や、体験会の開催を実施しており、今後大きな取組にしていきたいとのことでした。

- 人材育成について

オルタナティブスクールと森のようちえんに入ってもらえるスタッフが必要とのこと、最近結成された新しい教育を考える会と協力して、人材交流を図っていきたいとのことでした。



一般社団法人 育ちとつながりの家ちとせ

亀岡市

- 今年度力を入れた活動と新規事業

育てづらさ、生きづらさを抱えた子を対象にフリースクール事業、療育事業、相談事業を実施されています。今年度は、中間支援事業として、外部への講座事業に力を入れたそうです。フリースクール事業の保護者団体からの依頼で実施したペアレントトレーニング講座は、一般の方も対象として実施されました。他にも、ヘルパー事業所の社員教育や、支援学校での講演も実施。支援学校では、卒業後に準備しておくこと、親亡き後に関わること、日常生活の関わりの中でやっておくことについてお話をされたそうです。

新規事業としては、ひとり親家庭の子どもの居場所作りを進めておられるそうです。ひとり親家庭の子、不登校の子の居場所作りに加え、サロンの講師もする予定、とのことでした。

- 人材育成について

一般の支援者向けの達人塾を月1回実施しているそうです。体の使い方や運動発達の段階が、行動、思考のあり方にどうつながってどう伸ばしてあげられるかを分析し、効果的で楽しい活動を提供できるように心がけておられるそうです。

また、経営コンサルタントも依頼していて、事業の効果を言語化して構造化するアドバイスをいただいているとのことでした。漠然と良いと思ってやっていることをきちんと言語化し、第三者に伝えられるようにするため、とのことでした。

NPO法人 場とつながりラボhome's vi

京都市上京区

- 今年度力を入れた活動と新規事業

組織の基盤強化を支援する活動を主に行っているため、子育て支援団体から支援者の代替わりについての相談を受けたり、コミュニケーションや会議の進め方の研修を行ったりしたそうです。また、2年前から、ある京都市立高校の「探究」の担当教員と連携し、授業内容の構築も行っているとのことでした。団体が持つファシリテーションのスキルを活かし、高校生の考えを形にし、プロジェクト化し、実践し発表していくための支援を行っているとのことでした。

- 人材育成について

上記のような、高校との連携は来年度も継続予定で、同様にそうした場を作っていきたいとのことでした。基盤強化につながるファシリテーションの講座の実施、人材育成や事業継承などについても、子育て支援団体のみなさんから気軽に相談してもらえたら、とのことでした。

特定非営利活動法人 働きたいおんたちのネットワーク

宇治市

- 今年度力を入れた活動と新規事業

今年度力を入れた事業としては2つあげられるそうです。1つ目は、18歳までの子どもがいる複数の課題を抱えた家庭への訪問事業、2つ目は、ひとり親家庭の子どもやヤングケアラーに居場所や学習の場と食事を提供する事業、とのことでした。

新規事業としては、出産育児休業明けの親の慣らし就業をあげておられました。

- 人材育成について

人材育成は、普段の活動の中で実践されているとのことでした。



子育ての文化研究所

その他

- 今年度力を入れた活動と新規事業

今年度は、子育て支援者が学ぶべきことを丁寧に伝えることを重点目標とされたそうです。具体的には、新生児～首が据わるまでの赤ちゃんの抱っこを伝える人になろうというテーマでの研修、新生児～腰が据わるまでの赤ちゃんのいろいろな抱っこについての研修、言語聴覚士の先生からの研修等を実施されてきたそうです。来年度の活動はまだ未定とのことですが、今年度の延長線上で活動していく予定とのことでした。

- 人材育成について

人材育成は、先ほどあげた研修の中で実施しているとのことでした。

NPO法人 子育てを楽しむ会

宇治市

- 今年度力を入れた活動と新規事業

今年度は、現場で困っている課題を解決するために、2つの講座の開催されたそうです。体を動かすことを目標とした講座は、体の動かし方がおかしい子がいたので、それをきっかけに開催に至ったとのことでした。もう1つ、食育講座に関しては、保護者が食に関する悩みがあり、支援者から見ても支援が必要と思うケースが多かったため開催に至ったとのことでした。

- 人材育成について

体が反る・寝返りができない・はいはいをしない・咀嚼が苦手・言葉が遅いなど、日常的に開催している広場でも、たくさんの質問が寄せられるそうです。どのような相談内容、お子さんの状態の時に的確に専門家につなぐことが大事なのか？日常のケアや、環境設定で支援者がサポートできることは何か？的確なサポートのためのスキルは何を身につければよいのか？これまで、そのようなことを学び日々のサポートに生かしてきました。次年度も同様に、「そばにいて役に立つ支援者でありたい」という思いを実現できるように精進したい、とのことでした。

福知山公立大学地域経営学部 杉岡 秀紀 准教授の総括

皆さんの発表から感じたことは以下です。

- ✓ 南北に長い京都府で、活動を南北で展開する団体が増えてほしい。もっと交流が深まってほしいと思います。
- ✓ 地元自治体にしっかりと予算を確保してもらうのは難しい。それを実現するのはすごいこと。世代交代は今日の特徴的なキーワードだと思います。
- ✓ 利用者からのスタッフ開拓について。利用者と支援者を分けず境界を曖昧にしていくことが起きていて、参考になります。
- ✓ カードゲームをきっかけとして、高校生や民生児童委員にも裾野が広がっているのが良いことだと思います。
- ✓ 後継者にバトンを渡すと明言することで育ってくるものもある。こういう時代に入ってきているのかなと思います。
- ✓ 学生との交流やインターンシップは知らないことを知るきっかけ。素晴らしい関係になると思います。
- ✓ 複数団体のネットワークで行政へアプローチをかけていくのも効果的と思われます。
- ✓ 経営コンサルタントによって客観的な視点を得ているのが良い。他の団体も参考になると思います。
- ✓ 高校との連携に専門のNPOが単体で入っていくのはなかなかないこと。こうしたケースが増えていけばよいと思います。

先日、調査で沖繩に行ってきました。沖繩は、近年人口減少が進んでおり、出生率も一気に下がってきています。沖繩の子育て状況は非常に厳しいところがありますが、戦後アメリカの施策下に置かれ日本の制度が入らなかったことが一因と考えられます。民生児童委員が機能していない、自治会加入率は10%程度、公民館の機能が弱いなどの背景があり、地域の力で厳しい状況にある子どもたちを支援している現状です。大変な子どもたちを社会全体で支えていくのは、行政だけではできないと改めて感じました。

最近、高校生が自治会長を務めたり、京都府内でもまちづくりの柱となる総合計画の審議会会長に高校生が就任する等といったことがあり、私も高校生に注目しています。もっと若い世代に思い切って任せていく方向に、支援団体でも議論の余地があると思います。思いやりと才能のある人材を育成していくことを心に留め置いて、次世代にバトンを渡していくのが大事だと感じています。

グループワーク

テーマ：認証制度の今後について～仲間を増やすためには～

グループ1

(みのりのもり劇場 いんふぁんとroomさくらんぼ 場とつながりラボhome's vi FaSoLaBo京都)

ボランティアが勝手に集まる団体もあれば、集まっても定着しない現状もあることをシェアしました。その上で、どうすればよいかを考えたとき、利用者のお母さんたちがやりたいと思うことを実現させるための支援を行うことで、結果的に子育て支援につながるのでは？という意見が出ました。やりたい気持ちがある人を支援する方が、色々なことがうまく回し、やりたいことが外から見えやすい方が関わりやすい。はっきり見えているとお互いにとっても齟齬が生まれにくいというメリットもあります。

学生との繋がりを作り、学生をボランティアやスタッフとして取り込んでいくのも良いのでは、という意見もありました。

グループ2

(おひさまと風の子サロン そよかぜ子育てサポート グローアップ 育ちとつながりの家ちとせ 京都子育てネットワーク)

認証団体の制度は、認証までに色々手続きはあるがその後の活用法がいまいち分からないという意見が出ました。認証を受けるとこんなメリットがあるというのがあればいいし、支援団体は資金面で苦労するので新しい流れを考えていく必要があるという意見もありました。

また、今日の交流会はオンライン開催ですが、たまには対面で生の声を聴く機会があればと思います。それぞれの活動について顔を見て話すことでネットワークが広がるので、そうした機会もあればうれしいです。

福知山公立大学地域経営学部 杉岡 秀紀 准教授の総括

短くも質の高い議論だったと思います。支援には、人の支援、物の支援、情報の支援等、様々ありますが、今日は人の支援に関わる話が多く出ました。様々な世代の方々と出会う場を京都府として援助することはできないか、ぜひ事務局に検討してもらいたいと思います。ライフワークインターンという、職場体験だけでなく、終業後にお父さんお母さんがどういった生活をしているのかを知るインターンを京都府はずっとやっています。こういったところとも連携していけたら良いのではと思います。

認証団体として認証を受けるメリットについても話が出ました。認証制度が出来てから9年が経ちました。子育て支援団体がたくさんあるが繋がりが無いというところからできた制度ですが、ここ5、6年は団体数が伸びていません。制度の見直しには生の声が必要です。対面での交流をという話もありましたが、実際、リアルな意見交換でしか生まれにくいこともあります。こうしたニーズは大事にしていきたいと思います。

既存の取組、知識同士が組み合わせることで新たな組み合わせができます。これがイノベーションです。意識的にイノベーションを起せる仕組みを作るのが京都府に課せられたミッションだと思います。そういう場を作るのはオンラインのみでは困難です。

ソーシャル企業認証制度というものが、今広がってきています。これは地域や社会のために活動している企業を支援しようというもので、認証を受けることで資金提供などの支援を受けられます。こうした認証の仕組みとダブル認証を受けられるような制度を作るなど、制度と制度が繋がっていくようなイノベーションをぜひ検討してもらえればと思います。

今日、高校生というキーワードがたくさん出てきました。若い世代と関わる際には、シニア層とこうした世代との違いを知っておくべきかと思います。シニア層は、使命感、義務感、困っている人がいれば助けようという思いで動ける世代です。一方若者は、面白そう、楽しそうというところから動き始めます。継続するかどうか、楽しいかどうかで決まります。こうした点に、世代間の溝があるかもしれません。使命感だけでは動かない人が増えてきたと感じていますし、すばらしさを伝えるだけではなく、面白さ、楽しさ、わくわく感がないと続かないかもしれません。その辺りを見直し、アプローチを変える時期に来ていると考えています。